

四年間のガンとの闘い

「私が癌との病気で、たとえ死のうとも、それは肉体が滅びるだけで、今後、阿弥陀如来と歩む人生は、私が命終わっても、永遠に生き続けます」と、これからの「命」をどのように生きるか、子供のために何をすべきかを真剣に考えられました。

北海道斜里町

現代の念仏者シリーズ

鈴木章子

もう一人の私

四人の子供のお母さん



西念寺 鈴木真吾・章子さん御家族



昭和15年5月17日生
63年12月31日 寂
享年46歳

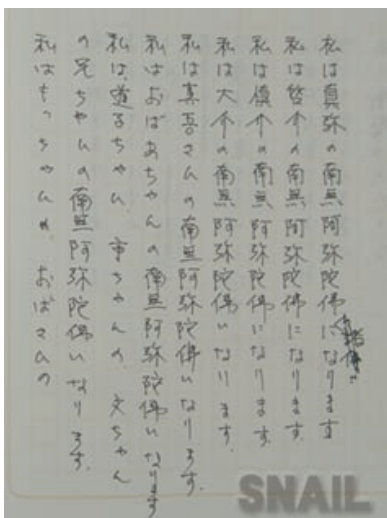


1	エビロゲ
2	乳癌告知を受けて
3	父からの手紙
4	肺癌告知を受けて
5	詩 今現在説法
6	本山報恩講
7	冬 父の死
8	父の言葉
9	春 呼応の大地
10	飛行機
11	秋 転々移の告知を受けて
12	詩 私
13	詩 ガンの末路
14	回想

上映時間 52分



西念寺門信徒会館の御本尊



子供に遺した詩

「私は…」

昭和62年11月 本山報恩講
肺癌の手術以降、外へ外へ
向かっていった心が、内なる心にむき出した



昭和63年4月5日
すねいるスタジオにて
「ガンでも笑っていたお母さん」
収録時

「もう一人の私」に気づかされたら
「私」なんかと言えなくなりました
鈴木章子（あやこ）さんは北海道斜里町西念寺の坊守さん、そして4人の子供のお母さんでした。42歳の時、乳癌の告知を受け、以降左肺、右肺に転々移、子宮、卵巣にも転移、脳にまで転移してしまふのです。絶望の中から「新しい自分」の生き方を見つけ出されたのです。



昭和63年12月15日 北見中央病院にて

「お母さんはきょうか明日、死ぬような気がする… みんな 覚悟はいいね」
母さんは今死んでも嬉しいよ。良いことをしたとか、悪いことをしたとか、成功したとか、成功しなかったとか、そんな事じゃない、満足したかどうかということ、母さんは十分に 満足したよ。

資料提供 斜里町西念寺 鈴木真吾/写真提供 西念寺 大橋健浩 留辺薬町西照寺/声 鈴木章子 CD「ガンでも笑っていたお母さん」より/ナレーション 長田和彦 広瀬はるみ/参考図書 妻の「癌告知のあとで」同朋舎 鈴木真吾著 『癌告知のあとで』探究社 鈴木章子著

ご注文は直接お申込みください ホームページ <http://www.snail.co.jp/> 仏教伝道教材の

075-343-0240

制作・著作・発売元

すねいる



鈴木章子 もう一人の私

DVDで発売 52分 定価9,000円 (税抜)